

# 《建設政策》関西交流ニュース

## 2020年1月 No.229

### 発行：NPO建設政策研究所 関西支所

〒540-0035 大阪市中央区錦町1丁目1-1・AKレスイデンス 501号室  
 (tel)06-6941-6058 (fax)06-6941-6115 (E-mail) nre28145 @ nifty.com  
 郵便振替 00950-0-117703 / 近畿労働金庫大阪中央支店・普通 5210780  
 /口座名：建設政策研究所関西支所  
 (関西支所ホームページ) <http://hd829716.life.coocan.jp>  
 関西交流ニュース：定価250円(送料別)〈年間個人会費に含〉

### MO・KU・JI

#### 【情報と交流】

- ★関西支所第25回定期総会を開催  
記念講演「近年の豪雨災害をどうみるか」
- ★阪神・淡路大震災から25年  
メモリアル集会「暮らしと生業は復興したか」
- ★熊野古道を歩きました

#### 【平和の広場〈建設人・9条の会〉】

- ★戦闘機などの未納入、85件349億円も！

#### 【おすすめの一冊／お知らせ】

- ★「SDGs入門」(日経文庫)



### 建設政策研究所関西支所 第25回定期総会を開催 記念講演

## 近年の豪雨災害をどうみるか 元淀川水系流域委員会委員長 宮本博司氏 を講師に

建設政策研究所関西支所は、12月7日(土)建交労会館(大阪市淀川区)にて第25回定期総会を開催しました。第一部の記念講演、第二部の総会を通して44人が参加、近年多発している豪雨災害をどう捉え、対処していくべきかを学ぶと共に、関西支所の一年間の活動の総括と次年度の方針を確認しました。

第一部は「近年の豪雨災害をどうみるべきか」をテーマに、元淀川水系流域委員会委員長の宮本博司氏による記念講演を開催しました。宮本氏は、自身が国土交通省の官僚であった経験に基づき治水行政の問題点をリアルに指摘。明治以来の治水が“計画洪水をダムで調整し、残りを川に集めて早く海へ流す”との考え方で行わ

## 謹賀新年

明けましておめでとうございます。昨年はラグビーをはじめ明るい話題が多かった反面、消費増税、大雨・台風被害、京都アニメーション放火事件など暮らしや安全・安心が脅かされる事象・事件も多い年でもありました。政治では、「モリ・カケ」問題はどこへやら、新たに桜を見る会やIRカジノ誘致をめぐる疑惑などの不正・腐敗も暴走政治とセットで浮上。今年こそ「2020」にふさわしく、良い年になるよう力を合わせて頑張りましょう。



れていることについて「洪水を川に押し込めれば押し込めるほど洪水エネルギーを集中させることになり、破堤した際の打撃は壊滅的になる」と近年の豪雨災害の事例を紹介しながら解説されました。治水のあるべき姿については、「洪水エネルギーを分散させ、守るべきところは守る」という明治以前の先人の教えに立ち戻るべきで、堤防強化を進めつつ、遊水池や調整池など土地利用計画との一体的な整備や、建築物、校庭・公園貯留施設の整備、森林・農地等の保水力向上など流域全体で考える必要があることを強調されました。そして最後に「これは私たちの住み方、地域の姿を変えることであり時間のかかる大仕事。私たちの世代より子供や孫の世代のために何が出来るかを考えましょう」と締めくくりました。

第二部の総会では、議案提案のほか、防災まちづくり研究会の取り組み報告や賃金労働条件問題研究会（外国人就労に関する研究）からの報告も行われ、関西支所の一年間の活動の総括、次年度の方針、決算報告・予算案など議案の全てが満場一致で採択されました。2020年度役員体制は下表のとおりです。

■関西支所理事会役員

理事長	中山 徹
副理事長	松原 秀樹
//	本多 裕重
//	日朝 洋明
事務局長	松本 裕之
理事	矢羽田 寛治
//	竹沢 幸英
//	北島 義徳
//	岡元 貞道
//	竹之内 正広
//	斉藤 真一
//	兎澤 博隆
//	鈴木 堂司
//	平田 喜久男
//	今井 勝幸
//	田中 康美
主任研究員	浜辺 友三郎
事務局員	表木 五郎
//	荒木 孝朋
//	蚊口 哲也
//	横山 孝吉
監査	藤川 拓
顧問	片方 信也
//	荒川 隆男

## 近年の豪雨災害をどうみるか ～印象に残った宮本講師語録～



- ☞ いいかげんな想定をしておいて「想定外」はない。「想定」が間違っていることを「想定」する謙虚さが大事。
- ☞ ダムは、想定洪水に対して効果的に洪水調節を行うもの。洪水規模が想定を上回ると…効果小、もしくは効果なし。  
コンクリートダムはオーバーフローしても決壊することはない。もし決壊するというのなら、そんな危険な構造物を何千も造ってきたことになる。
- ☞ 国は近年の破堤の原因を「越流水により川裏部の洗堀が進み堤体が決壊」と分析。ところが越水対策は「河川整備による水位低下を基本とする」として川裏部の補強を行わず、あくまで洪水調節等による水位低下を基本にしている。
- ☞ 実は、2000年の河川堤防設計指針には、たとえ越水しても急激に破堤しないよう川裏部の補強（裏法保護工）を耐越水堤防（巻堤）として明記した。ところが、この指針は2002年に廃止された。  
なぜか？ それは堤防の越水対策をするとダムの必要性が説明できなくなるから。だから私は「国は命を守る対策を意図的にしてこなかった」と思っている。
- ☞ 2018年12月中央防災会議は「自分の命は自分で守れ」と言った。洪水から命を守る対策を意図的に中止しておいて、自分の命は自分で守れと…。これは行政の不作为を改めることもしない“開き直り”だ。

### 樽(たる)と桶(おけ)

宮本さんは、現在、ご実家の「(株)樽徳商店」(京都市下京区)の取締役会長。樽と桶の違いについても解説頂きました。もともと酒を入れる容器として製造されたのが樽。紡いだ麻糸を入れる容器が桶。水密性が求められる樽は、横から見れば木の板目が見え、狂い・変形がないことを求められる桶は、柾目が見えるのだそうです。勉強になりました。

## 阪神・淡路大震災25年 メモリアル集会 「大震災から25年 暮らしと生業は復興したか」 ひとりも置き去りにしない復興を！

1月17日、阪神・淡路大震災25年 メモリアル集会が開催されました。集会は、松平健さんのトランペット“花”（喜納昌吉作）ではじまりました。

冒頭、6434人の犠牲者に黙祷を捧げ、続いて岩田事務局長の基調報告。生活再建への公的支援を求めた被災者と国民のたたかいで実現した被災者生活再建支援法や災害援護資金の少額返済・返済免除などの成果と、いまだに援護資金返済に苦しむなど残された課題を示しました。

ひょうご震災復興借り上げ住宅協議会の段野太一運営委員は、神戸市と西宮市による被災者追い出し裁判について、全員継続入居の伊丹市、宝塚市や、入居者の事情も考慮する兵庫県との対応の違いと、高齢になって転居が困難な入居者の実態を紹介し、支援を訴えました。

被災者ネットワークの安田秋成代表は、被災者救援と仮設住宅での支援活動を報告。借り上げ復興住宅からの追い出しを“行政による間接的殺人”と告発し、「どんな弱者でも安心して、誇りを持って生活できる社会の実現を目指し運動を続ける」と強調しました。

労働や医療、女性など各分野の取り組みが報告され、兵商連の磯谷吉夫会長は中小業者の災害復旧融資返済など残された阪神・淡路大震災の課題を示し、全国の被災地と連帯してたたかう決意を表明しました。報告の中で印象に残ったのは、人が生きるためには「衣食住」が必要だが、災害時には「医食住」がとても重要だということ。磯谷さんは『とんかつのながた園』の店主で、落ちこぼれ青年に職を与え立ち直らせるなど、あまり知られてはいないものの独特な営業方針を持っておられる方です。

集会には、全国から230名が参加。北海道厚真町の町議会議員の伊藤氏や、穀田恵二日本共産党国会議員があいさつを行いました。

集会アピールは、被災者生活再建支援法の改善を訴えるもので、災害義援金や緊急災害復旧資金融資の「支援支給制度」の創設を求め、被災時の医療提供体制や応急住宅復旧制度の拡充

を求めるとともに、『創造的復興』は、大規模大開発や神戸空港建設など「ショックドクトリン」と言われる災害便乗型開発に偏重し、憲法25条の生存権保障が置き去りにされた、として、「阪神・淡路の闘いは、暮らしの再建を求める闘いの出発点である。今日の集会を新たなスタートとして全国に広げる」ことを呼びかけました。

(A生)



## 友達夫婦と熊野古道を 歩きました 2019.12.15

表木 五郎

熊野古道 妻から「行きたい」とせがまれていたのですが、少し遠いこともあり、ズルズル延ばしていたのです。そんな折、京建労の吉田さんから「12月に夫婦で熊野古道を歩くつもり」とお聞きし、それではと、私たち夫婦も便乗することにしたのですが、コースから宿まで吉田さん任せで、お世話になりました。

昨年の12月15日、歩いたのは「中辺路の赤木越」10.7km（通常8km、災害復旧工事のため、一部迂回路を通行）。

9時に熊野本宮大社前のバス停に集合しました。バス停には、参拝や歩く人のために車を駐車できる場所が用意されています。歩く出発点は「発心門王子」、9時20分、「発心門王子」行きのバスに乗車、9時35分に到着、10時前にいざ出発です。

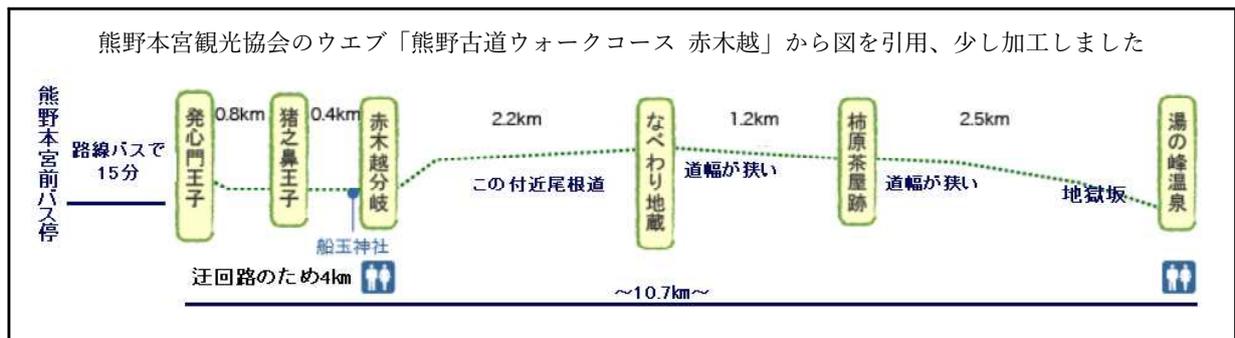
「赤木越分岐」までは、迂回路を歩き、まだかまだかと言いながら4kmを1時間程度かけて到着。この先トイレがないので一服と用を足しました。

細い山道を上ったり下ったり、登りきったところで視界が広がり、尾根の道が続く。そ

ここで楽しい昼食、出発前に調達したおにぎりとカップ麺を食べ、ホットコーヒーで仕上げました。

一遍上人の弟子が昼飯を炊いていたところ、鍋の水がなくなり、鍋が割れたので鍋割峠と呼ばれ、その「なべわれ地蔵」を越えると、廃屋が現れます。「柿原茶屋（宿）跡」と書かれています。昔、熊野詣と称して歩いた人々は、このような茶屋で泊まりながら歩いたのではないか、などと思いをはせながら通過、ゴールの「湯の峰温泉」を目指します。

少し手前にあるのが「地獄坂」、これは大変だと身を引き締めながら臨みましたが、幸いに「下り坂」です。登りは大変だなー、雨が降っても大変だなー、と言いながら、16時前には川から湯けむりが出ている「湯の峰温泉」に到着しました。



## 平和の広場

### 戦闘機などの未納入、85件349億円分も！

会計検査院の報告（2019.10.18）によると、米国政府の武器輸出制度「有償軍事援助」（FMS）に関して、米国側に代金を支払済であるにもかかわらず、実際には武器が未納になっているものがあるとのこと。

F35戦闘機などの前払い金額は2017年度末で1189件1兆2333億円。うち未精算額8510億円のうち大半は出荷予定時期前のものだが、出荷予定時期を過ぎても未納入のケースが85件349億円にも達する。FMSは米国の国防総省が行う対外軍事援助プログラムの一環で、取り引き輸出窓口は米国政府（米国防安全保障協力局）。契約価格は米国政府が見積もる「言い値」で支払いは前払いとなっている。日本のFMS調達は2015年度以降年々増加し、契約ベースで2015年度4705億円だったが、2019年度には7012億円にのぼっている。

契約に基づく納期が守られない・・・、精算が8510億円もされていない・・・。もしこれが米国国内での取引なら巨額の違約金が請求されるはず。日本でも契約納期までに納品されなければ延滞金の支払いを求め、ペナルティーもある。相手が米国なら何でもありなのか。そもそも、「有償軍事“援助”」となっていますが、米国大統領のこれまでの言動からすれば、米国内の軍事産業の為に、高額な武器を売りつけられているように思えてしかたがない。（・・・K）



## おすすめの一冊

### SDGs入門

村上芽（むらかみ・めぐむ）・  
渡辺珠子（わたなべ・たまこ）

（株）日本総合研究所・創発研究センター所属  
日経文庫 ￥900円（税別）

SDGs（エス・ディ・ジーズ）、ん！『少々聞き慣れない言葉』と思った方に是非ともおすすめしたい本です。

2015年9月に国連総会でSDGs「Sustainable Development Goals（持続可能な開発目標）」が採択されたもので、国連加盟193ヶ国が2016年から2030年の15年間で達成するために掲げた目標です。

日本政府をはじめ、国内の様々な組織もこの取り組みを支持しています。日本政府の「実施方針」では、「8つの優先課題」と「3本柱のアクションプラン」を定め、フォローアップを始めています。

本書は、初めての方や部分的に理解されている方にも、わかりやすくかつ、事例を織り交ぜながらそれぞれの「ゴール」と「ターゲット」の関わりも解説付きで学べる入門書です。

ワンセンテンスでSDGsを紹介すると、目標が17個あり、これを「ゴール」、この目標の下に169のターゲット、つまり『こうなりたい』が詳しく書かれています。持続可能な取り組みは『普遍的、包摂的、参画的、統合的』な取り組みとして、一人の生活者から地域や会社人として、私たち先進国も途上国も、世代間を問わず共通してめざすべき未来社会像と言えます。



取り組みのヒントとして、自分にあったやり方を学び個人の生活レベルからの取り組み方法を紹介。また、取り組みのテーマ別の紹介では、単一の方向だけではなく、複数のターゲットの組み合わせり方も紹介。取り組みや達成度合いは「自分ごと」として捉える大切さを訴えています。

本書を読み終えた後には、「こんな風に貢献したい」という、内なる意欲が湧き上がりやってみたいという気持ちになります。決して17の目標全てをまんべんなく取り組む必要はありません。今の生活スタイルや仕事をチョットした工夫で、あなたの、家族の、職場の、地域の、日本の未来を変える力になることに間違いありません。

（関西支所事務局員：荒木孝朋）

▼1月10日（金）第1回理事会を開催。今年度の運営体制、年間の取り組み概要、役割分担、財政などを確認した。▼通年の支所独自研究会は「建設労働政策研究会」を設ける。第1回は2月14日に開催し研究課題等を検討予定。▼企画行事としては沖縄・辺野古基地問題を検討。